

イースター礼拝 2021年4月4日（日）

題 『驚きの朝』

テキスト：マルコによる福音書16章：1～8節

みなさん、イースターおめでとうございます！

みなさんご家族と世界に神さまの平和と祝福をお祈りいたします。

主イエスの復活は、科学的なことと言うより、体験した弟子たちの証言、確信的な証言であり、それが伝えられて来ました。聖書のことばとして今日まで伝えられて来ているのです。

今日の聖書箇所は、イエスの復活を伝える記事です。

ある聖書学者は、復活は事件である。イースター事件であると言いました。

おもしろい方だと思うのです。

今日の聖書箇所は、マルコによる福音書です。このマルコによる福音書は、マタイ、マルコ、ルカ、そしてヨハネによる福音書、4つの中で一番古い時代に編集されたもので、紀元後70年代と言われます。今から1950年も前に生まれたのです。その描写は素朴であり、でもいききしてしていると言われています。主イエスの復活の場面を学びましょう。

◆復活する

1:安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメ

は、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。

当時のユダヤ教では、安息日は現在の土曜日です。ユダヤの暦では一日は夕方日が暮れてから始まり、朝を迎え夕方で終わります。そして安息日には決まりでは仕事をしてはならず、売り買いも禁止です。そこで、今日の聖書に出て来る3人の女性、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、安息日が終わる土曜日の夕方以降に、墓に葬った主イエスの遺体に塗るための香料を買いに行ったのです。遺体に香料を塗るのも当時のしきたりだったようです。

ちなみに香料はアロマと言われ、今日アロマセラピーとか言われています。

確かに良い香りは、心を和ませてくれます。

女性たちは慕うイエスに、塗ってあげたかったのです。

2:そして、週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。

日曜日の朝早く墓に急ぎます。今年はコロナ禍でできないかもしれませんが、日曜日の朝早く、丘に登ったり、緑のある公園にいてイースターの早天礼拝をする教会もあります。こどもたちとイースターの卵探しをしたりします。

墓に出向いた女性たちには、この時心配事がありました。

それは墓、洞窟のような墓と言われますが、そこの入り口を塞いでいる大きな移動式の石をどうして動かせるかということでした。そのことが、

3:彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。ということなのです。

ところが不思議なことに、

4:目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。

イースター事件が起こったのです。入り口をふさぐ大きな石が、女性たちの心配を転がすように、横に転がしてあったのです。

ちなみにイエスさまの墓の場所は、エルサレム場内にある

されこうべと呼ばれるゴルゴタの丘にあったと言われるのが定説です。

現在、そこに4世紀から聖墳墓教会が建てられています。

もう一つの候補地は、少し離れた緑の多い公園で、「園の墓」と言われる場所があります。

聖書の記述そっくりで、骸骨のように見える岩があり、聖書の記述に似た墓があるのです。19世紀になってプロテスタントの人が発見したのもです。今では有名な巡礼地、観光ルートになっています。

聖書によれば、3人の女性は、

5:墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた、とあります。

女性たちは、イエスを慕って、死の場所である墓に行き、死の世界といえる墓の中に入ったのです。この時に女性の姿、行動、墓に行き、墓の中に入る。これは「イエスと共に生き、共に死に与る姿」のように思えるのです。そこでイエスの復活の衝撃ニュースを天使から聞いたのです。

6:若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。

よみがえりのイエスは、すでに墓の中にはいなかったのです。

かつて、エルサレムを訪問したことがあります。この園の墓の中に入ると、そこには「ここにはイエスはおられない。」との文字が白い布のもののものに記されていました。この文字は人が書いたものです。イエスは復活なされたのです。

主イエスは、悪と不正に勝ち、死と絶望からよみがえられたのです。

十字架で死なれたイエスはよみがえられたのです。墓から命の世界へ。

暗闇から光の中へ。

これがイースター事件です。この事件は時代を超えて、いつでもどこでも、イエスさまと共に生きようとする者たちの上に起こって来るのです。

そして、イースターを知り、体験した者は証言者、証人（あかしびと）とされて、この世に、派遣されていくのです。イエスを愛し、心に迎え、愛なるイエスを伝えるためにです。

7:さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」

8:婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。

男性の弟子たちだけではなく、イエスの死を受けとめた女性たちもこの世界に派遣される者たちとされたのです。

今日ここに集ったわたしたちもその光栄ある列に加えられていることを覚えて光の中を歩みたいと願います。

◆復活する

- 1:安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。
- 2:そして、週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。
- 3:彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。
- 4:ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。
- 5:墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。
- 6:若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。
- 7:さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおりに、そこでお目にかかれる』と。」
- 8:婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。